

「インクルーシブな学校運営」 通信 第21号

カリキュラム・マネージャー

共通の課題について意見交換 「共に学ぶ会」

◎ 7月22日（水）「友人同士のかかわりの中でトラブルに発展する生徒の理解と対応」

中高養、更農、上士幌の3校から合わせて11名が参加して第2回「共に学ぶ会」が実施されました。

更農から提供してもらった事例をもとに、生徒理解、背景の把握、対応などが話し合われました。質疑を通して、当該生徒と集団との関係や教師のかかわり方など、気づきのあがる研修となりました。

研修の趣旨や全体像は次のとおりです。

本日のねらいと流れ

正解を出す会ではなく、迷いや悩みを共有し、視点を持ち帰る会にしましょう。

NERAI

本日のねらい

- 01 友人トラブルの背景にある「生徒理解の視点」を共有する
- 02 予防的支援・発生時の対応・事後指導の3つの視点で対応を整理する
- 03 それぞれの現場で「明日からできること」を持ち帰る

NAGARE

本日の流れ

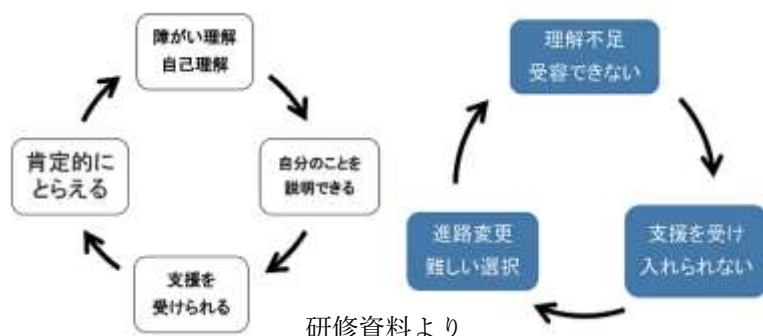
- ① 事例検討①
更別農業高校から出された事例で、生徒理解を深める
- ② 事例検討②
予防的支援 / 発生時の対応 / 事後指導で対応を考える
- ③ まとめ
「明日からできそうな対応」を整理する

※ ファシリテーターの資料より

◎ 8月20日（木）「障がいのある生徒の進路指導について」

中高養、更農合わせて13名が参加して、第3回「共に学ぶ会」が中高養進路指導部（齊藤T）の協力を得て行われました。

今回は中高養で実際に行われている進路指導をもとに、一般就労と福祉的就労の関係、福祉サービスの種類や十勝管内の現状、進路決定の際の教師側の見立て、「切れ目ない支援」の取組などについて研修しました。



新規に「交流及び共同学習」を開拓

「モデル事業」を受託してから2年間、多様な実践を積み重ねてきた両校ですが、2学期に入り、新たな計画が進行しています。

◎ 両校保健体育科が新たな挑戦

これまでは、生徒の「希望」により様々な教科で共同学習が実施されましたが、現在計画されている体育科の授業は、同一学年による単元レベルでの取組で、通常の授業の学習集団同士による共同学習となります。

フリーズラグは中高養の生徒と先生が考案したゲーム形式の競技で、昨年度末の実践でも取り上げられました。



昨年度の授業（フリーズラグ）の様子

日時	9月3日（木）、8日（火）5、6校時
場所	中札内村「交流の杜」体育館
生徒	第1学年 中高養14名、更農16名
指導	MT 中高養 ST 中高養2名、更農1名
単元	フリーズラグ
	*** 授業の流れ ***
導入	整列・挨拶、健康チェック 学習内容確認
展開	チーム発表・自己紹介 準備体操・ストレッチ ウォームアップ フリーズラグ
まとめ	整列、健康チェック、整理体操 振り返り・次時の確認、挨拶

◎ 中高養生徒が5週に渡り、更農の授業に参加

この共同学習は、中高養の8月31日（月）からの「現場実習」期間中に行われます。

農業や畜産などにかかわる更農の授業に4名の生徒が参加するもので、コミュニケーションや慣れない環境での適応などを実践的に学び、進路実現に向けて自分の課題と向き合う機会にしようと計画されました。

更農から提供される授業に、1名は5週間すべて、他の3名は企業等への実習と組み合わせて、それぞれ1～3週間の参加が予定されています。

1回目は9月2日（木）5、6時間目に計画されており、「フード／草花」の授業に、3名の生徒が参加して実施されます。

目的	①様々な人との交流を通して、人のかかわり方や報告・相談・連絡など本校で身に付けた力を生かし学習することができる。 ②慣れない環境でその場に合わせた行動する中で、柔軟な対応ができるよう取り組むことができる。
期間	8月31日（月）～10月2日（金）
生徒	中高養生徒4名（3学年）
指導	MT 更農、ST 更農・中高養各1名
教科	更農から提供された「受け入れ可能な授業等」から農業や畜産などの実習を伴う教科を基本に実施
移動	公共交通機関（バス）